

(様式4号)

まちづくりアドバイザー派遣結果報告書

令和 6年 4月 26日

茨城まちづくりセンター  
運営委員長 殿

報告者(主催者) 石下プロジェクト

まちづくりアドバイザー派遣制度運営要項第6条の規定に基づき、次のとおり報告します。

実施日時	令和6年 4月 21日(日) 午前10時00分～午後12時30分
主催者の名称	石下プロジェクト
講演会等の名称	まちづくり×地域歴史資産
アドバイザー氏名	石塚 政弘 氏
実施場所	会場名 常総市石下総合福祉センター
参加者数	18名
講演内容(具体的に詳しく記入して下さい。)	
【演題】古地図・古写真等から見る石下地域の変貌!これからのまちづくりを考える。	
【内容】当市の古地図・古写真等と現在の地図(都市計画図,ハザードマップ等)を比べて,変貌を知り,これからのまちづくりを考えるような場を設けたい。	
○時間割	
10:00~10:45 第一部 講演 「石下って昔は!が実感できる面白話満載のトークライブ」	
10:45~10:55 休憩	
10:55~12:30 第二部 座談会 「貴重な古地図を見ながら言いたい放題!参加者大満足の座談会」	
○講師の印象に残った発言	
石下は歴史的に見て面白い場所。地元民も忘れていた歴史やエピソードを紹介します。 「昔を知れば今がわかる」まさに温故知新である。	

## 感想など

### ○参加者からの感想

- ・歴史は苦手だが、まちづくりと結び付けて考えることで理解しやすかった。
- ・アンケート結果は良好で次回以降も開催を希望する声が多かった。

### ○主催者として参考・勉強になった点

- ・古地図を見て昔の地形や土地利用を考え、現在の都市計画図やハザードマップを改めて見ることで、まちの成り立ちや浸水への対応などについて考えるきっかけとなった。参加者同士で街の土地利用について、意見交換している場面も見られた。
- ・歴史を【過去】と捉えず【まちづくりの活動の記録】と考える事で地域の特性や“まちづくり”の方向性が見えてくる。水害を経験した常総市だからこそその“まちづくりの形”を考える切っ掛けとなればよい。現に200年前の古地図においても“治水事業”を中心に据えた地域づくりが良く見える。
- ・古地図を見たり、街の成り立ちの説明を聞いてから都市計画図を見ると、単に見た時より、土地の形状や集落の位置、用途地域の設定など、発見や気になる所がでてきたり楽しかった。
- ・『現在、圃場整備された田んぼの真ん中に1件だけある家について、昔は沼地があり、その管理をされていた方の家が現在も存在しているのでは?』という話について、古地図を重ね合わせての説明があつて、とても納得ができた。こんな風に、まちを知ること、興味が持てる雰囲気が良いと思った。

### ○今後のまちづくりへのアプローチ（どうまちづくりへ活かしていくか）

- ・都市計画図、ひよっとするとハザードマップをきちんと見ていない人がいると思う。そのため、現在の街に係る情報を把握するきっかけにできると感じている。
- ・つくば市や守谷市のような商業地でしか、賑わいづくりやまちづくりへの展開が難しいと思っていた。正直、ここまでの活発な意見交換ができると思っていなかった。
- ・「古地図」をアイテムとして使用したのは大正解であった。特に座談会では「史跡」に興味を示した方が多数いて「史跡巡り」の企画案が出された程だった。この提案から、座学と街歩きを合わせてイベント化することで、将来のまちの財産（歴史資産）の周知とファンを増やして行けると感じた。今後ご意見を参考により具体的な案を考えたい。

## 実施状況

